

新型コロナウイルスに関する生活者調査【特別編】

コロナ禍2年を経た生活者の意識は

「コロナ禍が収束しても現在の生活を維持したい」が昨年より5.2pt増加し61.5%に。

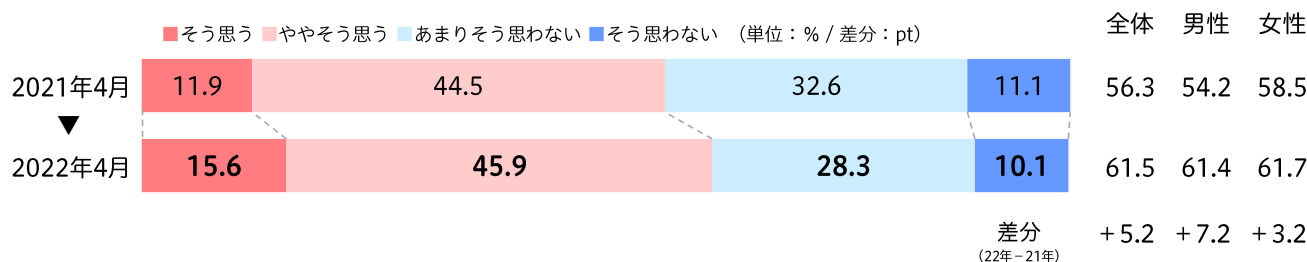
理由は「感染不安」「今の生活に慣れた」「自分の時間を充実させた生活ができる」「人に会わない生活が快適」

株式会社博報堂(本社-東京)のシンクタンク博報堂生活総合研究所は、2020年3月から毎月、「新型コロナウイルスに関する生活者調査」を実施しています。最新の4月調査では追加項目として、コロナ禍になって約2年経過したところで、生活者の「現在の生活スタイルの維持意向」や「新たに気づいたこと」などを聞きました。(調査は4月1~4日、対象は首都圏・名古屋圏・阪神圏の20~69歳の男女1,500名。調査概要は6ページ参照)。

現在の生活スタイルの維持意向

「現在の生活スタイルを維持したいか(新型コロナウイルスへの感染懸念がなくなった前提で)」と聞いたところ、「そう思う」計が61.5%で、一年前の調査(同56.3%)から5.2pt増加しました。男女とも増加しています。昨年は女性(58.5%)より低かった男性(54.2%)が今回は大きく伸び、男女ともほぼ同じスコアとなりました(男性は7.2pt増の61.4%、女性は3.2pt増の61.7%)。

■現在の生活スタイルの維持意向 (コロナ感染懸念がなくなった前提で)



現在の生活スタイルを維持したい理由

「現在の生活スタイルを維持したい」と回答した人に理由を尋ねたところ、全体では1位が「コロナに限らず感染症が不安」(41.7%)、2位は「今の生活スタイルに慣れた」(33.0%)、3位は「自分の時間を充実させた生活ができる」(32.4%)、4位は「人とあまり会ったり関わったりしない生活が快適」(29.6%)となっています。

男女別で見ると、女性の方が高い項目が多くなっています。特に「人とあまり会ったり関わったりしない生活が快適」(女性が18.0pt高い)、「マスクをする生活の方が快適」(同13.9pt)、「インドアで過ごす生活が快適」(同12.6pt)、「コロナに限らず感染症が不安」(同12.4pt)など。女性は、人と会わなくてもすむマイペースな生活の快適さを保ちたい意向が強く、マスクの方がむしろ快適と捉える人も多くなっています。

■生活スタイル維持意向の理由<維持したい理由>

全体との差が ■ +5pt以上 ■ +10pt以上 ■ -5pt以下 ■ -10pt以下 (単位: %)

順位	理由	全体 (923)	男性 (462)	女性 (461)	差分 (女性-男性)
1位	コロナに限らず感染症が不安だから	41.7	35.5	47.9	+12.4
2位	今の生活スタイルに慣れたから	33.0	32.3	33.8	+1.5
3位	自分の時間を充実させた生活ができるから	32.4	28.1	36.7	+8.6
4位	人とあまり会ったり関わったりしない生活が快適だから	29.6	20.6	38.6	+18.0
5位	時間を効率的に使えるから	28.6	31.4	25.8	-5.6
6位	出費や生活費を抑えた生活ができるから	26.5	25.1	28.0	+2.9
7位	世の中全体で高いレベルの衛生環境を維持できるから	26.2	24.5	28.0	+3.5
8位	健康的なリズムで生活できるから	24.7	21.6	27.8	+6.2
8位	インドアで過ごす生活が快適だから	24.7	18.4	31.0	+12.6
10位	家族や大切な人との時間を充実させた生活ができるから	23.4	19.5	27.3	+7.8
11位	コロナ禍前と生活が変わらず、支障がないから	22.5	22.7	22.3	-0.4
12位	職場、学校、病院に行かずに済むなど、場所に縛られずに生活できるから	20.5	19.7	21.3	+1.6
13位	マスクをする生活の方が快適だから	15.0	8.0	21.9	+13.9
14位	通勤や通学を毎日しなくてよい生活が快適だから	13.0	13.6	12.4	-1.2
-	その他	4.2	6.3	2.2	-4.1

現在の生活スタイルの維持意向(コロナ感染懸念がなくなった前提で) ～維持したい人が昨年より5.2pt増加し、61.5%に

性別では、男性61.4% (7.2pt増)、女性61.7% (3.2pt増)と、男性の方が大きく伸び、男女ほぼ同じ水準になりました。年代別でもすべての年代で増加しており、特に50代は56.9% (8.3pt増)、20代が63.7% (7.4pt増)と大きく伸びています。

現在の生活スタイルの好ましさ(コロナ禍前と比べて) ～「自分にとって好ましい」は昨年より7.4pt増の54.1%と過半数に

「現在の生活スタイルの好ましさ」を3つの視点(自分/家族/社会)で聞くと、特に「自分にとって好ましい」は54.1% (7.4pt増)と大きく伸び、過半数を超えました。「家族にとって好ましい」は42.2% (4.5pt増)、「社会にとって好ましい」は37.7% (3.2pt増)となっています。

3つの視点のスコアを比較すると、“社会や家族はともかく、自分にとっては好ましい”という評価の順は昨年から変わりませんが、いずれも「好ましいと思う」計が昨年より増加しています。

性別では3つの視点について大きな男女差はみられません。

年代別では特に「自分にとって好ましい」は20代、30代など若い層ほど反応が高くなっています(この傾向は昨年もみられたものです)。

■現在の生活スタイルの維持意向 (コロナ感染懸念がなくなった前提で)

全体との差が ■ +5pt以上 ■ +10pt以上 ■ -5pt以下 ■ -10pt以下
 ※1 維持したいと「思う」「やや思う」の計 (単位: %)

現在の生活スタイル 維持したい・計※1	全体	性別		年代別				
		男性	女性	20代	30代	40代	50代	60代
2021年4月	56.3	54.2	58.5	56.3	58.9	61.1	48.6	56.7
2022年4月	61.5	61.4	61.7	63.7	64.7	62.3	56.9	61.0
差分 (22年-21年)	+5.2	+7.2	+3.2	+7.4	+5.8	+1.2	+8.3	+4.3

■現在の生活スタイルの好ましさ (コロナ禍前と比べて)

全体との差が ■ +5pt以上 ■ +10pt以上 ■ -5pt以下 ■ -10pt以下
 ※2 好ましいと「思う」「やや思う」の計 (単位: %)

好ましいと思う・計※2	全体	性別		年代別					2021年 全体	差分 (22年-21年)
		男性	女性	20代	30代	40代	50代	60代		
自分にとって好ましい	54.1	54.4	53.7	60.6	60.1	58.1	46.9	44.8	46.7	+7.4
家族にとって好ましい	42.2	41.2	43.2	49.4	43.1	44.1	36.7	38.6	37.7	+4.5
社会にとって好ましい	37.7	38.6	36.7	43.2	39.9	41.9	32.6	30.5	34.5	+3.2

現在の生活スタイルの維持意向の理由 【性・年代別】

維持したい理由(維持したい人のみ) ~ 「感染不安」「今の生活に慣れた」「自分の時間を充実させた生活ができる」「人に会わない生活が快適」

全体では1位が「コロナに限らず感染症が不安」(41.7%)、2位は「今の生活スタイルに慣れた」(33.0%)、3位は「自分の時間を充実させた生活ができる」(32.4%)、4位は「人とあまり会ったり関わったりしない生活が快適」(29.6%)となっています。

男女別でみると、女性の方が高い項目が多くなっています。特に「人とあまり会ったり関わったりしない生活が快適」(男女差18.0pt)、「マスクをする生活の方が快適」(同13.9pt)、「インドアで過ごす生活が快適」(同12.6pt)「コロナに限らず感染症が不安」(同12.4pt)など。女性では、人と会わなくてもすむマイペースなインドア生活の快適さへの意向が強く、マスクですら快適と捉えている人が多くなっています。

年代別にみると、30代では「時間を効率的に使える」「家族や大切な人との時間を充実させた生活ができる」が全体の数値に比べて高く、40代では「人とあまり会ったり関わったりしない生活が快適」「インドアで過ごす生活が快適」「マスクをする生活のほうが快適」が、60代では「コロナに限らず感染症が不安」「健康的なリズムで生活できる」などが高くなっています。

維持したくない理由(維持したくない人のみ) ~ 「自由に旅行や帰省をしたい」「不自由やストレスで楽しくない」「マスクのない生活をしたい」

全体では上記3つの理由が上位ですが、層別では顔ぶれが異なります。男性では高い順に、「不自由やストレスで楽しくない」「マスクのない生活をしたい」「自由に旅行や帰省をしたい」。女性では、「自由に旅行や帰省をしたい」「自由に外出がしたい」「人と直接会って、話したり関わりたい」。

男性はマスクに象徴される不自由さを挙げ、女性は旅行や外出などの具体的な行動や人づきあいをしたいとの欲求が強くなる傾向があります。

年代別では、30代/40代で子どもに関する項目(「子どもには自由に行動させたい」「子どもに外の世界と接する経験をさせたい」)が全体より高くなっています。また60代では全体を大きく上回る項目が多く、特に「自由に旅行や帰省をしたい」「人と直接会って、話したり関わりたい」「自由に外出がしたい」といった項目は全体を10pt以上も上回っています。

■生活スタイル維持意向の理由<維持したい理由> [維持したい人ベース]

全体との差が ■ +5pt以上 ■ +10pt以上 ■ -5pt以下 ■ -10pt以下 (単位: %)

	全体 (923)	性別		年代別					
		男性 (462)	女性 (461)	20代 (165)	30代 (183)	40代 (223)	50代 (194)	60代 (158)	
1位 コロナに限らず感染症が不安だから	41.7	35.5	47.9	39.4	39.3	35.9	44.3	51.9	
2位 今の生活スタイルに慣れたから	33.0	32.3	33.8	29.7	29.0	36.8	34.5	34.2	
3位 自分の時間を充実させた生活ができるから	32.4	28.1	36.7	30.9	35.0	37.2	27.8	29.7	
4位 人とあまり会ったり関わったりしない生活が快適だから	29.6	20.6	38.6	23.6	28.4	39.5	29.9	22.8	
5位 時間を効率的に使えるから	28.6	31.4	25.8	27.3	35.0	32.3	26.3	20.3	
6位 出費や生活費を抑えた生活ができるから	26.5	25.1	28.0	20.0	31.1	26.5	27.3	27.2	
7位 世の中全体で高いレベルの衛生環境を維持できるから	26.2	24.5	28.0	23.0	25.1	24.7	25.8	33.5	
8位 健康的なリズムで生活できるから	24.7	21.6	27.8	22.4	26.2	21.5	18.6	37.3	
8位 インドアで過ごす生活が快適だから	24.7	18.4	31.0	24.8	26.2	30.5	20.1	20.3	
10位 家族や大切な人との時間を充実させた生活ができるから	23.4	19.5	27.3	22.4	29.5	28.3	20.1	14.6	
11位 コロナ禍前と生活が変わらず、支障がないから	22.5	22.7	22.3	15.8	15.3	30.0	21.6	28.5	
12位 職場、学校、病院に行かずに済むなど、場所に縛られずに生活できるから	20.5	19.7	21.3	24.2	22.4	28.7	13.4	11.4	
13位 マスクをする生活の方が快適だから	15.0	8.0	21.9	12.7	18.6	20.2	9.3	12.7	
14位 通勤や通学を毎日しなくてよい生活が快適だから	13.0	13.6	12.4	13.9	14.2	18.4	9.3	7.6	
- その他	4.2	6.3	2.2	3.6	3.3	4.5	5.7	3.8	

■生活スタイル維持意向の理由<維持したくない理由> [維持したくない人ベース]

全体との差が ■ +5pt以上 ■ +10pt以上 ■ -5pt以下 ■ -10pt以下 (単位: %)

	全体 (577)	性別		年代別					
		男性 (291)	女性 (286)	20代 (94)	30代 (100)	40代 (135)	50代 (147)	60代 (101)	
1位 自由に旅行や帰省をしたいから	60.0	54.0	66.1	52.1	58.0	59.3	59.9	70.3	
2位 不自由やストレスで楽しくないから	56.3	60.1	52.4	54.3	56.0	56.3	52.4	64.4	
3位 マスクをしない生活をしたいから	53.6	55.3	51.7	46.8	58.0	51.1	53.1	59.4	
4位 自由に外出がしたいから	50.8	43.6	58.0	43.6	52.0	45.9	51.7	61.4	
5位 人と直接会って、話したり関わりたいから	42.3	32.0	52.8	34.0	33.0	40.0	39.5	66.3	
6位 自由に買い物ができるから	40.9	36.4	45.5	37.2	37.0	40.7	43.5	44.6	
7位 自由にライブや観劇などに行きたいから	32.2	23.7	40.9	34.0	24.0	34.1	31.3	37.6	
8位 社会や経済を回さなければならないから	25.0	22.0	28.0	13.8	26.0	21.5	28.6	33.7	
9位 子どもには自由に行動させたいから	22.7	19.2	26.2	7.4	31.0	32.6	20.4	18.8	
10位 子どもに外の生活と接する経験をさせたいから	17.9	14.4	21.3	6.4	28.0	24.4	15.6	12.9	
11位 非日常的な刺激がほしいから	15.6	14.8	16.4	17.0	19.0	11.1	12.9	20.8	
12位 コロナ禍の間に失われた時間や経験を取り戻したいから	15.4	12.4	18.5	22.3	12.0	12.6	12.2	20.8	
13位 今の生活スタイルに飽きたから	13.2	13.1	13.3	11.7	15.0	12.6	12.2	14.9	
14位 仕事や収入の減少などで生活を維持できないから	12.7	13.1	12.2	10.6	16.0	16.3	12.9	5.9	
15位 自由に職場や学校に行きたいから	11.4	11.7	11.2	11.7	7.0	14.1	13.6	8.9	
16位 家族から離れて、自分の時間を確保したいから	8.1	5.2	11.2	8.5	12.0	4.4	6.8	10.9	
17位 家事負担から解放されたいから	6.2	3.1	9.4	1.1	9.0	5.2	6.8	8.9	
- その他	6.4	7.2	5.6	11.7	7.0	6.7	6.1	1.0	

最も多かった気づきは「生活の状況はいつ変わるかわからないものだ」

コロナ禍生活で「新たに気づいたこと」について19項目を提示したところ(注:昨年は17項目)、全体では「生活の状況は、いつ変わるかわからないものだ」が76.3%で最も高く、以下「自分も社会も衛生意識が高まり、風邪や病気にかかりにくくなった」(68.2%)、「人と対面で会うときは、その時間を大切にできるようになった」(60.3%)、「人付き合いのストレスが減った」(58.9%)という順になりました。

昨年と比較すると全般的に増加している項目が多いですが、「テレワークやオンライン授業を経験して、必ずしも学校や会社に行く必要はないと感じた」(44.7%、6.0pt増)、「感染対策をする日常に慣れて、不自由さを感じなくなった」(55.9%、5.0pt増)などが比較的高い伸びを示しています。

女性の方が対面の大切さなど、多数の気づき

性別では、女性の方が19項目中14項目で高くなっています(女性の方が高い項目が多いのは、昨年と同様の傾向)。

男女差が大きいのは、「人と対面で会うときは、その時間を大切にできるようになった」(男性52.2%、女性68.5%で16.3pt差)、「生活の状況は、いつ変わるかわからないものだ」(男性68.3%、女性84.5%で16.2pt差)などです。

20代、30代で多くの気づき。オンラインの利便性、大切なものを見極める機会、生活の変化と可能性への実感など

年代別では、全般的に20代、30代の若い年代のスコアが高く、50代、60代の高年層では低い項目が多くなっています。

全体と比べて20代、30代が比較的高いものを列挙すると、「オンラインでの買物や診療など、オンライン上でできることが増えて便利になった」「テレワークやオンライン授業を経験して、必ずしも会社や学校へ行く必要はないと感じた」などオンライン活用の利便性や、「人と対面で会うときは、その時間を大切にできるようになった」などコミュニケーションについての気づきがあります。また「自分に大切なものを見極める機会になった」という気づきも多くなっています。さらに「家族と過ごすことが楽しくなった」「家で過ごすことが楽しくなった」など生活のあり方の変化実感とともに、「生活費はもっと節約できることを実感するようになった」「テレワークを経験して、必ずしも都会に住まなくてもよいと感じた」といった生活を大きく変えられる可能性まで、多岐にわたる気づきを得ているようです。

■コロナ禍生活で「新たに気づいたこと」

全体との差が ■ +5pt以上 ■ +10pt以上 ■ -5pt以下 ■ -10pt以下
 ※3「そう思う」「ややそう思う」の計 (単位: %)

そう思う・計※3	全体	性別		年代別					2021年 全体	差分 (22年-21年)
		男性	女性	20代	30代	40代	50代	60代		
1位 生活の状況は、いつ変わるかわからないものだと思うようになった	76.3	68.3	84.5	71.4	79.2	76.5	73.6	81.5	---	---
2位 自分も社会全体も衛生意識が高まり、風邪や病気にかかりにくくなった	68.2	63.2	73.2	66.4	68.9	67.0	66.6	73.0	66.1	+2.1
3位 人と対面で会うときは、その時間を大切にできるようになった	60.3	52.2	68.5	71.0	65.0	56.7	51.3	61.4	57.1	+3.2
4位 人付き合いのストレスが減った	58.9	55.5	62.4	61.4	67.1	59.5	55.7	51.0	54.2	+4.7
5位 自分にとって大切なものを見極める機会になった	57.9	53.0	62.8	62.9	62.9	53.9	55.4	56.0	57.1	+0.8
6位 お金をあまり使わなくても、楽しみはつくれると思うようになった	56.9	53.3	60.6	60.2	61.8	55.9	49.0	60.2	---	---
7位 家族と過ごすことが楽しくなった	56.7	51.7	61.8	60.6	65.4	55.0	49.0	56.0	57.9	-1.2
8位 家族の気持ちのケアに気がつかうようになった	56.1	51.3	60.9	57.1	58.3	57.0	51.9	56.8	54.5	+1.6
9位 感染対策をする日常に慣れて、不自由さを感じなくなった	55.9	52.6	59.2	59.1	56.9	57.8	49.3	57.5	50.9	+5.0
10位 家で過ごすことが楽しくなった	54.8	50.3	59.3	60.2	63.3	54.5	46.6	51.4	52.6	+2.2
11位 自由な時間を、自分の成長のために使いたいと思うようになった	54.5	51.3	57.8	64.5	57.6	52.0	46.0	56.0	56.6	-2.1
12位 生活費は、もっと節約できることを実感するようになった	54.1	53.7	54.6	61.0	59.7	52.5	44.9	55.6	50.7	+3.4
13位 オンラインでの買物や診療など、オンライン上でできることが増えて、便利になった	52.5	51.7	53.4	65.6	62.9	52.0	44.6	39.4	48.1	+4.4
14位 以前より健康的な生活を送れるようになった	49.4	48.9	49.9	55.2	55.1	45.8	39.9	54.8	47.5	+1.9
15位 街や電車などが混雑しておらず、快適になった	45.9	46.9	44.8	47.9	46.6	46.9	43.4	44.8	45.3	+0.6
16位 テレワークやオンライン授業を経験して、必ずしも会社や学校へ行く必要はないと感じた	44.7	45.7	43.8	55.6	53.4	44.4	38.4	33.2	38.7	+6.0
17位 講演、授業やイベントなどは、オンラインで時間や場所に縛られず参加できるようになった	40.5	41.2	39.8	47.1	48.1	42.2	33.1	32.8	36.1	+4.4
18位 通勤・通学時間などが減って、自由に使える時間が増えた	35.7	39.2	32.3	42.9	38.9	35.5	32.6	29.7	32.1	+3.6
19位 テレワークを経験して、必ずしも都会に住まなくてもよいと感じた	34.9	35.9	34.0	42.1	39.9	39.9	27.6	25.1	33.0	+1.9

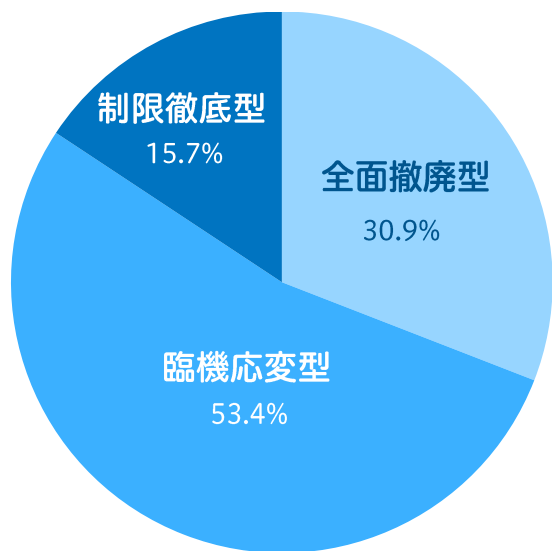
社会の新型コロナウイルスへの向き合い方は、感染状況に応じ制限と解除を繰り返す「臨機応変型」が半数

「社会の新型コロナウイルスへの向き合い方」について、どのような方向が望ましいか3つの選択肢から選んでもらったところ、「今後の国内感染状況に応じて『行動制限につながる措置』の発出と解除を繰り返していく方向」、すなわち「臨機応変型」が53.4%と半数を占めました。

性別では、男女とも3つの選択肢の中で「臨機応変型」が最も多くなっていますが、女性の方がより「臨機応変型」が高くなっています(男性48.1%、女性58.8%)。一方、「全面撤廃型」は男性37.2%、女性24.5%と男性の方が高くなっています。

年代別でも、全年代とも「臨機応変型」が最も多くなっています。「全面撤廃型」は20~40代で高め、50、60代では低めになっています。感染者がゼロになるまで徹底的に行動を制限していく「制限徹底型」については、20代のみ19.7%と相対的に高いスコアになっています。

■社会の新型コロナウイルスへの向き合い方



設問文

あなたご自身は「社会の新型コロナウイルスへの向き合い方」について、どのような方向が望ましいと考えますか。最も近いものをひとつだけお選びください。
 ※選択肢にある「行動制限につながる措置」とは、人の自宅待機・マスク着用義務・出入国制限や、店舗の時短営業・休業・人数制限などを指します。

全面撤廃型

今後の国内感染状況に関係なく、「行動制限につながる措置」を全面的に撤廃する方向

臨機応変型

今後の国内感染状況に応じて、「行動制限につながる措置」の発出と解除を繰り返していく方向

制限徹底型

今後国内の感染者がゼロの状態を達成するまで、「行動制限につながる措置」を続けていく方向

全体との差が ■ +5pt以上 ■ +10pt以上 ■ -5pt以下 ■ -10pt以下 (単位: %)

社会のコロナウイルスへの向き合い方	全体 (1500)	性別		年代別				
		男性 (753)	女性 (747)	20代 (259)	30代 (283)	40代 (358)	50代 (341)	60代 (259)
全面撤廃型	30.9	37.2	24.5	34.4	35.0	33.5	27.3	23.9
臨機応変型	53.4	48.1	58.8	45.9	49.5	51.7	57.8	61.8
制限徹底型	15.7	14.7	16.7	19.7	15.5	14.8	15.0	14.3

質問項目(質問文)

コロナ禍生活で「新たに気づいたこと」

新型コロナウイルス発生から約2年が経ちますが、コロナ禍の生活の中で、あなたが新たに気づいたことや再発見したことは何ですか。次にあげるそのような意見について、あなたご自身にあてはまるものをひとつずつお答えください。
(単一回答：そう思う/ややそう思う/あまりそう思わない/そう思わない・自分にはあてはまらない)

現在の生活スタイルの好ましさを(コロナ禍前と比べて)

コロナ感染拡大以前と比べて、現在の生活スタイルの方が好ましい(生活しやすい/暮らしやすい)という意見がありますが、あなたはどのようにお考えでしょうか。

「自分」にとって好ましい/「家族」にとって好ましい/「社会」にとって好ましいのそれぞれについて、あてはまるものをひとつずつお答えください。

(単一回答：そう思う/ややそう思う/あまりそう思わない/そう思わない)

現在の生活スタイルの維持意向(コロナ感染懸念がなくなった前提で)

今後、新型コロナウイルス感染への懸念がなくなったとしても、あなたは今の生活スタイルを維持したいと思えますか。あてはまるものをひとつお答えください。

(単一回答：そう思う/ややそう思う/あまりそう思わない/そう思わない)

現在の生活スタイルの維持意向の理由

あなたが今後、新型コロナウイルス感染への懸念がなくなったとしても、今の生活スタイルを維持したい/維持したくない理由としてあてはまるものをいくつでもお選びください。(複数回答)

社会の新型コロナウイルスへの向き合い方

あなたご自身は「社会の新型コロナウイルスへの向き合い方」について、どのような方向が望ましいと考えますか。最も近いものをひとつだけお選びください。

※選択肢にある「行動制限につながる措置」とは、人の自宅待機・マスク着用義務・出入国制限や、店舗の時短営業・休業・人数制限などを指します。

(単一回答：全面撤廃型/臨機応変型/制限徹底型)

調査地域	①首都40km圏(東京都・神奈川県・千葉県・埼玉県・茨城県) ②名古屋40km圏(愛知県・三重県・岐阜県) ③阪神30km圏(大阪府・京都府・兵庫県・奈良県)
調査対象者	20～69歳の男女
対象者割付	調査地域①～③各500人を各地域の人口構成比(性年代)に合わせ割付
調査人数	合計1,500人

(単位：人)

	20代	30代	40代	50代	60代	合計
男性	131	143	180	172	127	753
女性	128	140	178	169	132	747
合計	259	283	358	341	259	1,500

調査方法	インターネット調査
調査時期	2022年4月1日(金)～4日(月)
企画分析	博報堂生活総合研究所
実施集計	株式会社 H.M.マーケティングリサーチ

(参考)一昨年4月から今回調査直近までの社会の主な動き

<2020年>

- 4月 「緊急事態宣言」発出、全国に拡大(5月に全面解除)
- 9月 東京でGoToトラベルの予約開始 GoToイートは10月に予約開始
- 11月 GoToイート、一部中断
- 12月 GoToトラベル、一時中止(東京、後に全国)

<2021年>

- 1月 緊急事態宣言が再発出(1都3県、後11都府県に拡大)
- 3月 大阪・兵庫・京都で同宣言解除、3/21に1都3県解除
- 4月 まん延防止等重点措置の適用が順次拡大
緊急事態宣言、東京・大阪・兵庫・京都に、3度目の発出
- 6月 緊急事態宣言、沖縄を除き解除 10都道府県でまん延防止等重点措置
- 7月 緊急事態宣言、東京(4度目)、首都圏3県・大阪に拡大
東京五輪開幕 京都・兵庫など5道府県にまん延防止等重点措置

<2021年>

- 8月 1日あたりの新規感染者が全国2万5千人超、東京で5千人超を記録
緊急事態宣言(19都道府県)、まん延防止等重点措置(8県)、9月末まで延長
- 9月 新規感染者、重症者の減少 ワクチンの2回接種者が全人口の5割超
緊急事態宣言(19都道府県)、まん延防止等重点措置(8県)が全面解除(9/30)
- 12月 下旬まで感染者数は低位推移 下旬に大阪や東京でオミクロン株の市中感染

<2022年>

- 1月 新規感染者が全国9万人超 「まん延防止等重点措置」、34都道府県に拡大
- 2月 新規感染者が全国10万人突破後、減少傾向に 北京冬季五輪・バラ開幕
まん延防止等重点措置、5県で解除(2/20)、18都道府県では3/21まで延長決定
ロシア軍、ウクライナへの全面的な侵攻を開始(2/24)
- 3月 まん延防止等重点措置、残る18都道府県ですべて解除(3/21)
- 4月 全国の感染者数は減少しつつも、増加している地域もあり地域差がみられる

<備考>

過去のニュースリリースは、こちらのURLからご覧いただけます。 <https://www.hakuhodo.co.jp/news/newsrelease/>